

市民講演会

アグロサイエンスカフェ開催

～あんな研究、こんな技術～

私たちは、東海地区の二つの国立大学の農学系大学院修士課程(静岡大学、岐阜大学)が連合して岐阜大学大学院連合農学研究科という、ひとつの大学院博士課程の教育を行っています。市民の皆様には私たちの日頃行っている教育と研究について理解していただくことを目的に、研究紹介の集いを企画しました。

講演題目

糖鎖の機能を利用する:薬物送達への応用

日時 平成22年12月7日(火) 14時～

場所 愛知県産業労働センター ウィンクあいち
10階 小会議室(1004)

講演者 14時00分～ 石田秀治(岐阜大学 応用生物科学部 教授)

講演内容 糖鎖は主に細胞の表面に存在して、細胞の目印として機能しています。例えば赤血球型(ABO式)は、赤血球の表面に結合している糖鎖によって決まります。白血球の表層にも糖鎖が存在し、その糖鎖は白血球が炎症部位に集まる時に働きます。私達は、白血球の糖鎖で表面を修飾したリポソーム(脂質でできた球)を作り、それを体内の目的の場所に送る事に成功しました。その中に蛍光物質を入れることで、ガンや炎症部位の可視化に成功しました。

研究発表 14時30分～

「忌地現象発生機構の生物学的解析並びに植物生育改善法の確立」

博士課程1年:岡田 朋大(岐阜大学 松原 陽一 准教授)

忌地現象は園芸作物生産において栽培中及び改植後に生育不良、収量・品質低下が発生する現象で、多年生作物で発生している。しかし、忌地現象の発生因子・機構については不明な点が多く、それらの解明と対策法の確立が望まれている。本研究では忌地現象発生機構の解析として生物的誘導因子の解析、発生因子間の相互作用についての評価を行う。また、生物的及び化学的防除法を検討し、総合的植物生育改善法の確立を目的とする。

「Microbial enrichment capable of anaerobic oxidation of methane coupling to iron reduction.」

博士課程1年:Samson Viulu(岐阜大学 高見澤 一裕 教授)

Anaerobic oxidation of methane (AOM) has so far been widely reported to occur with sulfate and nitrate/nitrite as electron acceptors. Our current study investigates the possibility of AOM coupling to iron (III) reduction in an anaerobic enrichment added with ferric hydroxide, with constant supply of methane whilst, stable isotope analysis using $^{13}\text{CH}_4$ /GC-MS has also started to determine AOM activity by the enrichment culture.

「ブナ稚樹の生存戦略を明らかにするために」

博士課程2年:藤島 みずき(静岡大学 水永 博己 教授)

木は光がなくては生きていけないが、どんなに大きな木も始めは暗い林床で発芽する。少ない光資源をいかに効率よく利用し、稼いだエネルギーをどう使うかによって、生き残り大木へと成長できるかがかかっている。日本の冷温帯に広く分布するブナを対象に、彼らの子供時代の生存戦略を明らかにしようと試みた。

15時30分～ フリーディスカッション

主催:岐阜大学大学院連合農学研究科 構成国立大学法人(岐阜大学・静岡大学)

問い合わせ TEL: 058-293-2985 E-mail: renno@gifu-u.ac.jp

対象者

一般市民・学生
企業関係者
農学研究に興味のある方

入場料無料

予約不要

